

社会資本総合整備計画
三国駅周辺地区都市再生整備計画

平成28年 2月 1日

福井県坂井市

社会資本総合整備計画

平成28年 2月 1日

計画の名称	三国駅周辺地区都市再生整備計画			重点計画の該当	
計画の期間	平成28年度 - 平成32年度 (5年間)			交付対象	坂井市
計画の目標	大目標 三国湊の歴史、伝統、文化が感じられる訪れたい、住み続けたいまち 目標1 えちぜん鉄道三国駅前の拠点化 目標2 三国駅と歴史・文化資源が集積する市街地の一体化によるまちなか観光の促進 目標3 利便性が高く、誇りを持って暮らすことが出来る居住環境の創出				

計画の成果目標(定量的指標)	・公共交通利用者数を322,723人/年(H26)から311,034人/年(H32)として減少率を抑制 ・三国湊町散策者数を63,856人/年(H26)から76,788人/年(H32)に増加 ・三国コミュニティセンター利用者数を29,525人/年(H26)から40,018人/年(H32)に増加				
----------------	---	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H26当初)	中間目標値	最終目標値 (H32末)	
公共交通利用者数 定義:「えちぜん鉄道三国駅」と「三国駅前停留所(京福バス・コミュニティバス)」の年間乗降客数 算定方法:近年の傾向で推移したH32予測値に、三国湊町散策者数の増加分、三国コミュニティセンター利用者の増加分のうち、公共施設利用者の数を加える	322,723人/年		311,034人/年	
三国湊町散策者数 定義:三国湊界隈を散策する年間(年次)の歩行者数(計測の対象や方法は既存統計「福井県観光入込客(推計)に準じる」) 算定方法:平成27年以降の散策者数の伸び率を、坂井市全体の直近4年間の1年当たりの平均伸び率と同等にする	63,856人/年		76,788人/年	
三国コミュニティセンター利用者数 定義:三国コミュニティセンターの年間利用者数(主催事業、サークル活動、その他貸館利用) 算定方法:平成23年度に改修した高棕コミュニティセンターの改修前後の利用者数の変化に準じる(高棕コミセンもその他公共サービス機能と複合した施設)	29,525人/年		40,018人/年	

全体事業費	合計 (A+B+C)	652百万円	A	652百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0%
-------	---------------	--------	---	--------	---	------	---	------	-------------------------	----

交付対象事業

A 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H28	H29	H30	H31	H32		
A1	都市再生	一般	坂井市	直接	坂井市	三国駅周辺地区都市再生整備計画事業	85ha	坂井市						652.0	
										合計	652.0				

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H28	H29	H30	H31	H32		
										合計					

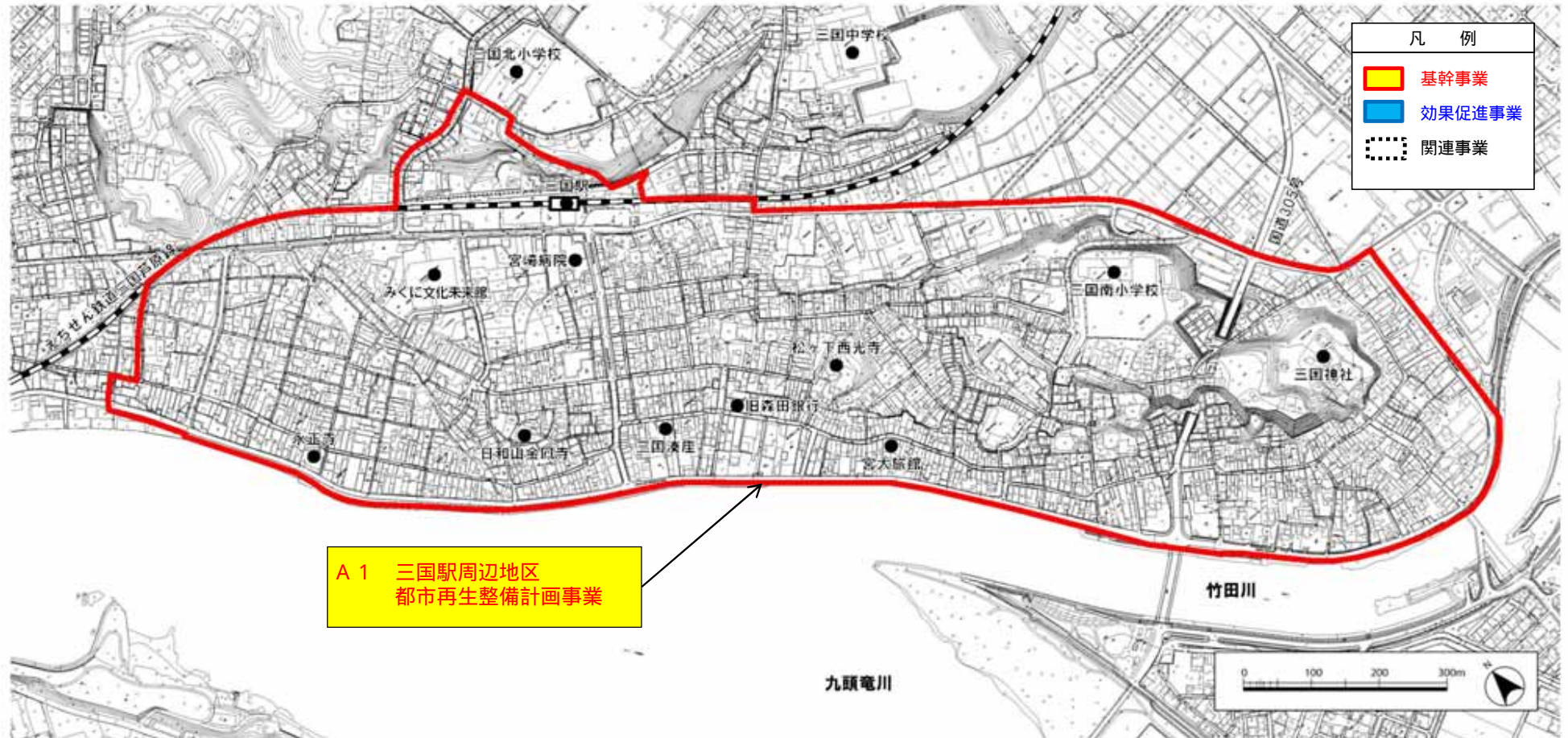
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H28	H29	H30	H31	H32		
										合計					

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考

(参考図面)

計画の名称	三国駅周辺地区都市再整備計画		
計画の期間	平成28年度 ~ 平成32年度 (5年間)	交付対象	坂井市



社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称： 三国駅周辺地区

事業主体名： 坂井市

チェック欄

. 目標の妥当性	
都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	レ
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	レ
地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	レ
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	レ
. 計画の効果・効率性	
目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	レ
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	レ
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	レ
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	レ
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	レ
事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	レ
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	レ
. 計画の実現可能性	
地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	レ
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	レ
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	レ
円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	レ
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	レ
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	レ

都市再生整備計画

みくにえきしゅうへん
三国駅周辺地区

ふくい さかい
福井県 坂井市

平成28年 2月 1日

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福井県	市町村名	坂井市	地区名	三国駅周辺地区	面積	85 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度				

目標

- 大目標 三国湊の歴史、伝統、文化が感じられる訪れたい、住み続けたいまち
 目標1 えちぜん鉄道三国駅前の拠点化
 目標2 三国駅と歴史・文化資源が集積する市街地の一体化によるまちなか観光の促進
 目標3 利便性が高く、誇りを持って暮らすことが出来る居住環境の創出

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

平成18年3月の4町合併(三国、丸岡、春江、坂井)によって誕生した本市は、福井県の北部に位置し、絶景を誇る東尋坊、福井県のシンボルとなる九頭竜川などの豊かな自然環境をはじめ、古代に築かれた歴史資源や近代的な文化資源、さらには、古川や海運商人が築いた歴史的な街並みなど、生活に根付いた地域の宝が数多く存在している。
 本地区は、北前船の寄港地であった三国湊の繁栄に伴い形成された古くからの市街地であり、昔ながらの坂道や小道の多い市街地形態に、歴史的な町家や寺社仏閣などの歴史・文化資源が数多く残されているとともに、北陸を代表する祭りである三国祭の舞台として、また、三国地区の鉄道の玄関口として中心的な地区である。
 これらの地区特性を活かし、平成17年度から平成26年度にかけて「街なみ環境整備事業」を実施し、地区内の道路や小公園、集会場などの地区施設の整備、地域住民による景観づくり協定に基づく建物の修景整備など、個性的な街並みの形成を推進してきた。また、平成20年9月に策定された坂井市景観計画において、本地区は「湊町地区特定景観計画区域」に指定されており、湊町らしい風情ある景観づくりを進めるため、建築物や工作物、屋外広告物に関する景観形成基準が定められている。
 さらに、市民や民間が主導する取り組みも活発であり、平成16年に設立した「三国湊魅力づくりプロジェクト実行委員会(現在はNPO法人)」が中心となり、ジェラート店や街中回遊の観光拠点となる「三国湊座」の開業、その他、三国湊の魅力を発信する様々なプロジェクトに取り組んでいる。
 このように、これまでも歴史・文化資源を活かしたまちづくりが進められてきたが、平成30年に開催される福井国体や平成34年度に予定されている北陸新幹線の敦賀開業を控える中、湊町としての魅力や拠点性を更に高めてまちなか観光を促進すること、また、生活者が誇りを持って住み続けることができる市街地環境を整えることが求められている。
 また、坂井市では平成24年3月に策定した「坂井市公共施設マネジメント白書」を踏まえ、庁内検討部会を地域ごとに設けて公共施設の再編に向けた検討を進めている。

課題

- ・えちぜん鉄道三国駅は三国湊の玄関口であるが、人々が滞留し交流できる空間、観光客への情報発信機能などが不足しているため、それら機能を備えた拠点形成が必要である。また、機能導入に合わせて三国湊を印象付ける都市景観の創出も望まれる。
- ・三国湊の玄関口である三国駅と、湊町としての歴史・文化資源が数多く残り、観光拠点となっている歴史・文化資源が集積する市街地の回遊性を高め、まちなか観光を促進することが必要である。
- ・駅前に立地する三国コミュニティセンターは地域住民等の交流拠点であるが、大ホール部の耐震性能が不足しており、耐震性確保とそれに合わせたコミュニティセンター機能の強化が必要である。なお、機能強化にあたっては、公共施設の利用促進や効率的な維持管理の観点から、庁内の公共施設再編部会と連携しながら既存公共施設との統合や合築などについて検討する必要がある。
- ・これまで進めてきた歴史・文化資源の保全や活用、歴史的街並みの創出を更に促進し、地域住民が誇りを持って暮らすことが出来る市街地形成が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- 坂井市総合計画【計画期間2008年～2017年】
- ・「水と歴史の創生拠点」として、歴史や伝統を大切に、来訪者にとっても生活者にとっても利便性の高い、歩いて生活・回遊できるまちづくりを目指す。
 - ・海運商人が築いた湊町の歴史的街並みの保全に努めるとともに、これらと調和した街並みの誘導、さらには、歩行者空間の整備・演出による回遊性の創出を図り、歩いて楽しめる空間づくりに努める。
 - ・市街地における観光資源の集積性を活かして、歩いて楽しめるまちなか観光を推進する。
- 坂井市都市計画マスタープラン【平成20年6月策定】
- ・えちぜん鉄道三国駅周辺は、三国地域の商業・業務機能の中心地として、観光客への各種サービスの供給地として機能集積を高める。また、隣接する地域は、地域住民及び観光客への特産物の販売などの商業ゾーンを供給する地区として、暮らしやすくイメージの良い市街地環境の維持、創出を進める。
 - ・三国湊の繁栄を偲ばせる歴史的街並みの維持、散策環境の充実と居住環境の改善を図る。
- 坂井市景観計画【平成20年9月策定】(湊町地区特定景観計画区域)
- ・景観づくりの目標 「緑の丘に抱かれた湊町文化の息づ(まち みくに)
 - ・景観づくりの方針 三国祭の舞台となる湊町らしい街なみ景観の継承と創出 中心的な商業業務地にふさわしい活気とにぎわいのある街なみ景観の創出 うるおいと落ち着きのある居住環境の保全・育成

目標を定量化する指標

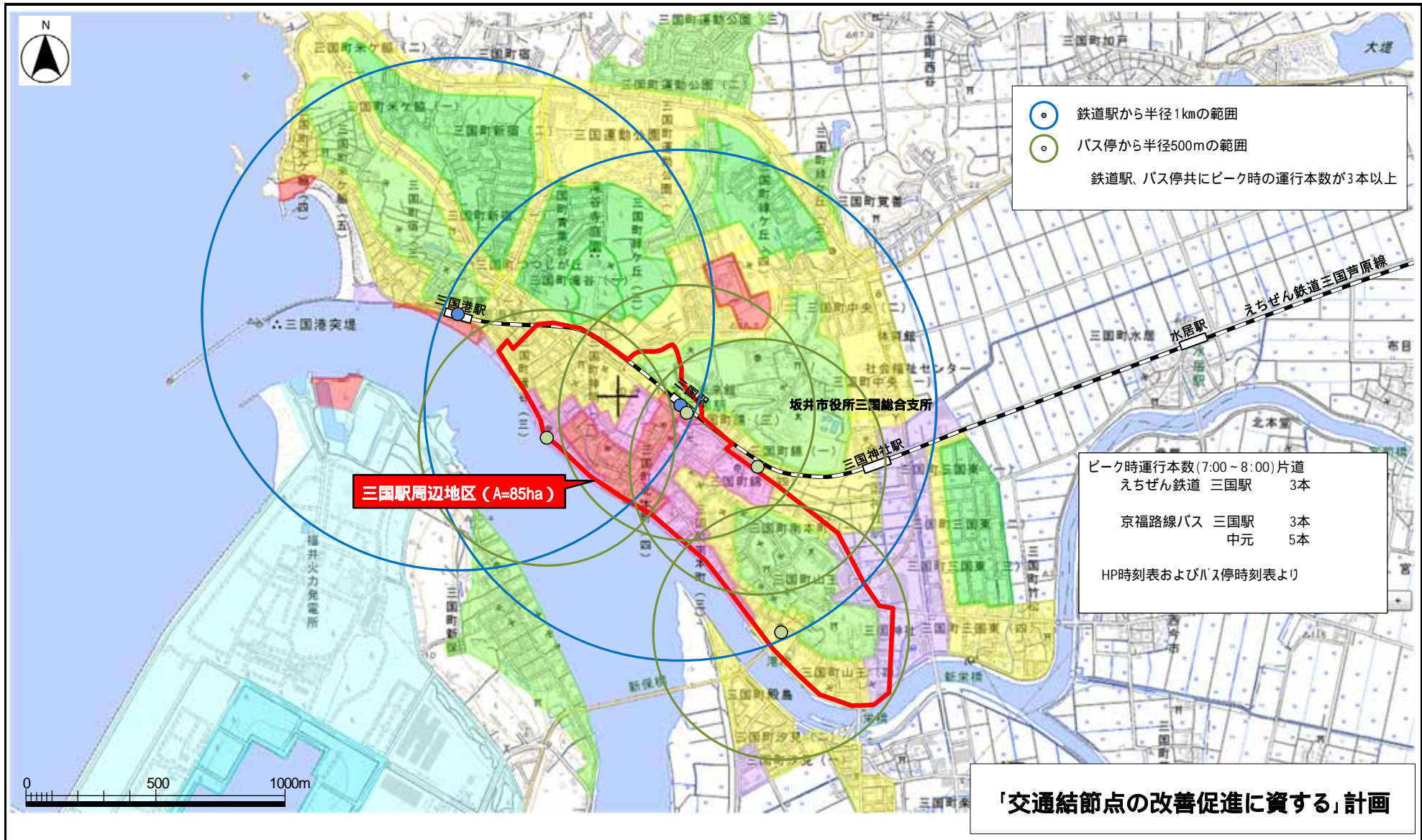
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
公共交通利用者数	人/年	「えちぜん鉄道三国駅」と「三国駅前停留所(京福バス・コミュニティバス)」の年間乗降客数	三国駅前拠点化や三国駅周辺地区全体の魅力アップにより、近年減少傾向にある公共交通利用者数の減少率を抑制する。[事業未実施時のH32利用者見込数:約305,000人 事業実施:311,034人]	322,723	H26	311,034	H32
三国湊町散策者数	人/年	三国湊町界隈を散策する年間(年次)の歩行者数(計測の対象や方法は既存統計「福井県観光客入込数(推計)」に準じる)	三国駅周辺地区の回遊性の向上、魅力アップにより、近年減少傾向にある三国湊町界隈の散策者数を増加させる。	63,856	H26	76,788	H32
三国コミュニティセンター利用者数	人/年	三国コミュニティセンターの年間利用者数(主催事業、サークル活動、その他貸館利用)	地域の交流拠点である三国コミュニティセンターの機能強化により、近年減少傾向にある同施設の利用者数を増加させる。	29,525	H26	40,018	H32

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>1. えちぜん鉄道三国駅前の拠点化</p> <p>三国地域の玄関口であるえちぜん鉄道三国駅前において、地域住民にとっての交流の場、観光客に対する情報発信の場としての拠点化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客や地域住民の滞留・交流の場として、三国駅前に多目的広場を整備する(市営駐車場・駐輪場の機能回復を含む)。 ・多目的広場整備に支障する民間ビル内に設置されている駅舎機能について、地域の景観特性に配慮した新たな駅舎として整備する。また、駅舎整備にあわせて、観光客に対する情報発信機能や休憩スペースなど備えた観光交流センターを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/広場) ・えちぜん鉄道三国駅舎整備事業(関連事業) ・観光交流センター整備事業(基幹事業/高次都市施設/観光交流センター)
<p>2. 三国駅と歴史・文化資源が集積する市街地の一体化によるまちなか観光の促進</p> <p>三国駅前の拠点化にあわせて、駅前と歴史・文化資源が集積する市街地の回遊性を高め、まちなか観光を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三国駅と歴史・文化資源が集積する市街地を結ぶ歩道、鉄道南北を連絡するエッセル坂の美化化を行う。 ・歩行者の回遊を促すため、街なみ景観に配慮したサインの整備を行う。 ・歩行者の休息や交流の場として回遊ルート沿いにポケットパークを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道美化事業(基幹事業/高質空間形成施設/緑化施設等) ・サイン整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/情報板) ・ポケットパーク整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/広場)
<p>3. 利便性が高く、誇りを持って暮らすことが出来る居住環境の創出</p> <p>公共サービス機能の利便性を高めるとともに、先人が守り、これまでのまちづくりにより培ってきた歴史・文化資源を活かした市街地環境に磨きをかけ、居住者が誇りを持って住み続けることが出来る環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大ホール部の耐震性能が不足し、施設全体としても老朽化が見られる三国コミュニティセンターは、みくに文化未来館の大ホールをコンバージョンし、必要な機能を確保することにより、利用者の利便性を高め、効率的な維持管理を可能にする。 ・三国湊として繁栄した面影を残す歴史的な建物や街並みの保全、創出に向けて、住民が行う建造物の修理や修景に対して補助を行う。 ・街並みに潤いを与えるポケットパークを回遊ルート沿いに整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三国コミュニティセンター整備事業(基幹事業/既存建造物活用事業) ・建物修景補助事業(関連事業) ・ポケットパーク整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/緑地)(再掲) ・事業効果分析(提案事業/事業活用調査)
<p>その他</p>	

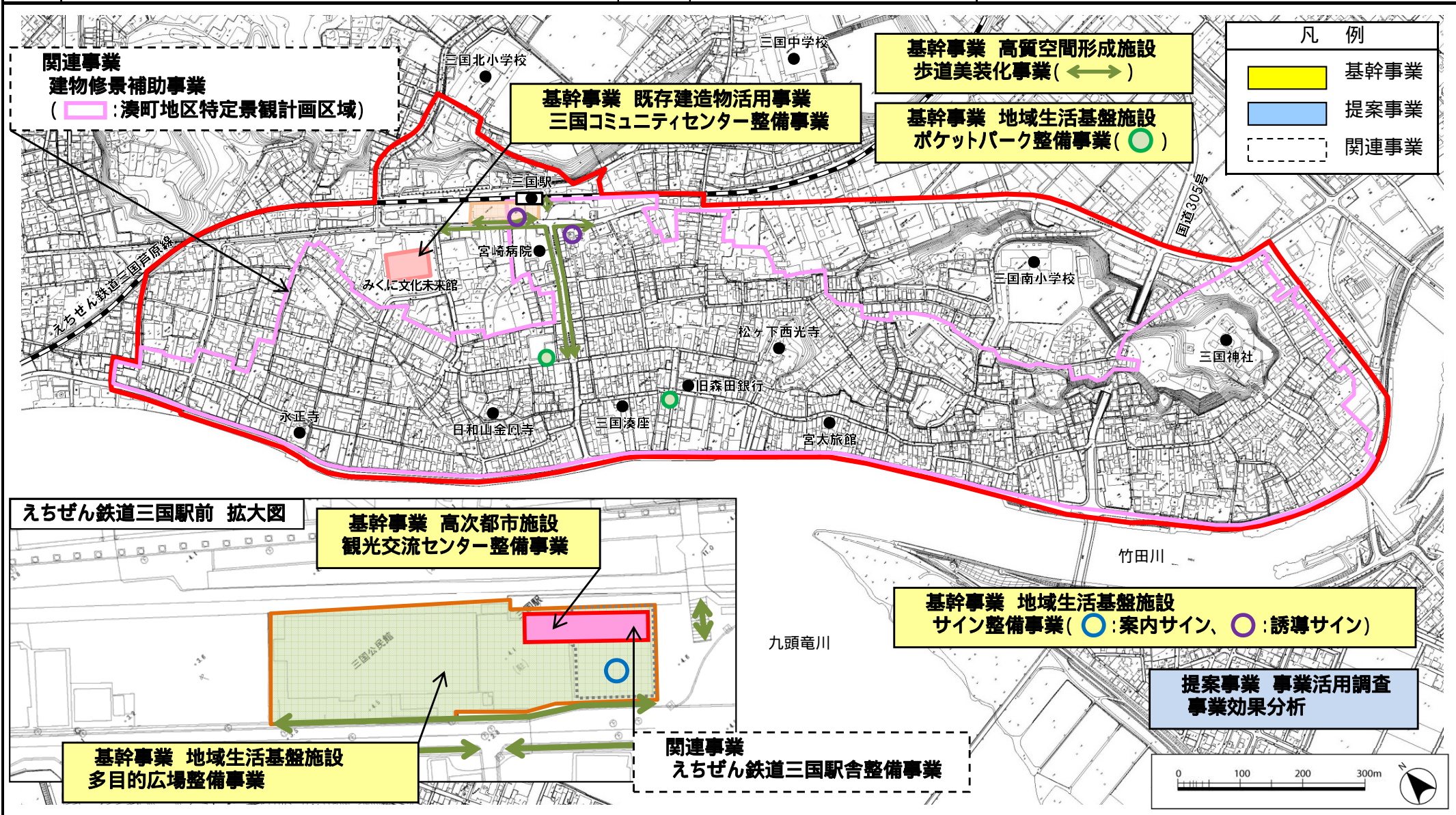
都市再生整備計画の区域

三国駅周辺地区 (福井県坂井市)	面積	85 ha	区域 目 三国町山王1～6丁目、南本町1～4丁目、錦4丁目、北本町1～4丁目、神明1～3丁目、滝谷2～3丁目
------------------	----	-------	--



三国駅周辺地区(福井県坂井市) 整備方針概要図

目標	大目標	三国湊の歴史、伝統、文化が感じられる訪れたい、住み続けたいまち	代表的な指標	公共交通利用者数 (人/年)	322,723 (H26年度)	311,034 (H32年度)
	目標1	えちぜん鉄道三国駅前の拠点化		三国湊町散策者数 (人/年)	63,856 (H26年度)	76,788 (H32年度)
	目標2	三国駅と歴史・文化資源が集積する市街地の一体化によるまちなか観光の促進		三国コミュニティセンター利用者数 (人/年)	29,525 (H26年度)	40,018 (H32年度)
	目標3	利便性が高く、誇りを持って暮らすことが出来る居住環境の創出				



【提出様式】

まちづくり交付金の事前評価チェックシート

地方整備局名 近畿 都道府県名 福井県 市町村名 坂井市 地区名 三国駅周辺地区

I. 目標の妥当性

チェック欄

①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 (該当するものに○) 1. 中心市街地活性化 2. 防災 3. 少子高齢化 4. 人口定着 ⑤. 観光・交流 6. アメニティ 7. 交通利便性 ⑧. 都市活力 ⑨. 地域コミュニティ 10. その他	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) ①. 市町村総合計画 2. 都道府県長期計画 3. 都市再生緊急整備地域 4. 構造改革特別区域 5. 地域再生計画 6. 全国都市再生モデル調査 7. 被災市街地 8. 中心市街地活性化計画 ⑨. その他	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○